NetBackup™ for SQLite 管理者ガイド

Windows および Linux

リリース 11.2.0.1

COHESITY

NetBackup™ for SQLite 管理者ガイド

最終更新日: 2026-10-07

法的通知と登録商標

Copyright © 2026 Cohesity, Inc All rights reserved.

© 2026 Cohesity, Inc All Rights Reserved.Cohesity、Cohesity ロゴ、その他の Cohesity マークは、Cohesity, Inc の米国における、および/または国際的な商標です。ここで提供される情報は、Cohesity の機密情報および専有情報であり、(a) 意図された受信者により、(b) 有効なライセンスを受けた Cohesity ソフトウェアおよびサービスと共にのみ使用することができます。Cohesity ライセンスの条項については、www.cohesity.com/agreements を参照してください。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

Cohesity サポート

Cohesity サポートへのお問い合わせ

Cohesity サポートケースを作成するには、いくつかの方法があります。

- Cohesity サポートに移動してベリタスのナレッジベースで検索するか、電話で問い合わせます (米国およびカナダ: 1-855-9CO-HESI (926-4374)、オプション 2)。
- Cohesity サポートポータルにログインして、新しいケースを作成します。
- Cohesity UI の (?) アイコンをクリックし、[サポートポータル (Support Portal)]を選択します。

サポートおよびサービスアシスタンス

最初に、サービスおよびサポートを契約したサービスプロバイダにお問い合わせください。Cohesity と直接連携している場合や、製品の保証や資格、修理の価格設定、またはテクニカルサポートに関連する質問がある場合は、以下のオプションを参照してください。

- 製品の問題に対するソリューションや、提案およびベストプラクティスを見つけるには、Cohesity ナレッジベースを参照してください。
- Cohesity サポートポータルにログインして、新しいケースを作成します。
- オープン中のケースを監視するには、ポータルにログインし、ホームページの[ケース (Cases)]タブをクリックします。このページには、すべてのケースの状態と更新が表示されるはずです。個々のケースの状態を表示することもできます。

パートナーのハードウェアで実行されている Cohesity ソフトウェア

認定されたサードパーティ製ハードウェアで動作する Cohesity ソフトウェアの場合、次のサポートワークフローが適用されます。

1. ハードウェアの問題であると判断できない場合は、まず Cohesity サポートにお問い合わせください。

   メモ: Cohesity はパートナーのハードウェアの交換要求を処理できません。

2. Cohesity サポートは問題の優先順位を判断します。ソフトウェアの問題の場合、Cohesity サポートは引き続きこの問題に取り組みます。
3. ハードウェアまたはファームウェアの問題であるかその可能性がある場合、Cohesity は問題に関する情報をお客様に提供し、適切なパートナーに対するサポートチケットを発行するようお客様に依頼します。
4. Cohesity サポートは必要に応じて、パートナーとお客様との三者通話に参加できます。
5. お客様がパートナーのケースの進捗状況を Cohesity サポートに通知します。

目次

第 1 章 NetBackup for SQLite の概要 6

NetBackup for SQLite について 6
NetBackup for SQLite でサポートされる機能 7
NetBackup for SQLite Agent のマニュアル 7
NetBackup for SQLite の前提条件 7
NetBackup のインストール後の要件 8

第 2 章 NetBackup for SQLite の構成 9

DataStore ポリシーを使用した SQLite バックアップの構成 9

第 3 章 NetBackup for SQLite のバックアップおよびリストア 11

SQLite データベースのバックアップについて 11
SQLite バックアップの実行 12
バックアップ情報の検証 13
バックアップの問い合わせ 14
NetBackup カタログファイルからのバックアップ情報の削除 14
SQLite バックアップのリストアについて 15
SQLite バックアップのリストアの実行 16
リダイレクトリストア 16
ディザスタリカバリ 17

第 4 章 NetBackup for SQLite のトラブルシューティング 18

NetBackup for SQLite Agent 使用時のエラーのトラブルシューティング 18

付録 A NetBackup for SQLite のコマンドおよび規則 23

NetBackup for SQLite Agent コマンドについて 23
NetBackup for SQLite Agent コマンドの表記規則について 23

付録 B NetBackup for SQLite のコマンド 25

nbsqlite -o backup 26
nbsqlite -o restore 27
nbsqlite -o query 28
nbsqlite -o delete 29

索引 30

1

NetBackup for SQLite の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup for SQLite について
- NetBackup for SQLite でサポートされる機能
- NetBackup for SQLite Agent のマニュアル
- NetBackup for SQLite の前提条件

NetBackup for SQLite について

NetBackup for SQLite Agent は、NetBackup の機能を拡張したもので、SQLite データベースのバックアップとリストアを行います。このエージェントは、SQLite バージョン 3.10.0 以降をサポートします。

NetBackup for SQLite は NetBackup クライアントで使用できます。

メモ: すべての NetBackup ホストが、バックアップ操作およびリストア操作が正常に行われた NetBackup のバージョンと同じであることを確認します。

このエージェントは、さらに以下もサポートします。

- バックアップの検証。
- バックアップとリストアの問い合わせ。
- カタログファイルからのバックアップ情報の削除
- リストアのリダイレクト。

NetBackup for SQLite のワークフロー

エージェントは、単一のデータベースファイルがあるボリュームのスナップショットを作成します。Windows 用のボリュームシャドウコピーサービス (VSS)、または Linux 用の LVM (Logical Volume Manager) は、SQLite データベースのスナップショットを作成します。

エージェントは、スナップショットをマウントしてファイルを XBSA データオブジェクトにコピーしてから、NetBackup XBSA インターフェースにそれを送信します。NetBackup XBSA インターフェースは、NetBackup メディアサーバーが管理する、マウントされたメディアまたはディスクストレージにこのデータを書き込みます。

LVM が構成されていない Linux オペレーティングシステムの場合、エージェントはデータベースファイルをファイルシステムから直接コピーします。

NetBackup for SQLite でサポートされる機能

表 1-1 に、エージェントがサポートする機能を示します。

表 1-1　エージェントでサポートされる機能

機能	説明
バックアップ	エージェントは、SQLite データベースの単一ファイルベースのバックアップをサポートします。
リストア	エージェントは、SQLite バックアップファイルのリストアをサポートします。
リダイレクトリストア	エージェントは、代替 NetBackup クライアントへの SQLite バックアップファイルのリストアをサポートします。

NetBackup for SQLite Agent のマニュアル

NetBackup for SQLite Agent のマニュアルは、次の URL から入手できます。

https://support.cohesity.com/s/article/article-100040135

NetBackup for SQLite の前提条件

次の前提条件を満たしていることを確認します。

- NetBackup がインストールされ、プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントで稼働中である。
- SQLite データベースがインストールされ、クライアントで稼働中である。

メモ: NetBackup を以前のバージョンからバージョン 10.1 以降にアップグレードする場合、NetBackup クライアントも対応する NetBackup バージョンにアップグレードする必要があります。

NetBackup のインストール後の要件

インストール後に次を実行します。

- (Windows) バックアップおよびリストアを実行しているユーザーに、管理者権限があることを確認します。
- (Linux) バックアップおよびリストアを実行しているユーザーが、スーパーユーザーである、またはスーパーユーザー権限を持っていることを確認します。

2

NetBackup for SQLite の構成

この章では以下の項目について説明しています。

- DataStore ポリシーを使用した SQLite バックアップの構成

DataStore ポリシーを使用した SQLite バックアップの構成

エージェントは、属性、スケジュール、クライアントリスト、バックアップ対象を定義するために、DataStore ポリシーをサポートします。

DataStore ポリシーを使用して SQLite データベースバックアップを構成するには

1. プライマリサーバーに管理者 (Windows) または root ユーザー (Linux) としてログオンします。
2. [NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)]の順にクリックします。
3. [すべてのポリシー (All Policies)]ペインで、[すべてのポリシーの概略 (Summary of All Policies)]を右クリックして、[新しいポリシー (New Policy)]をクリックします。
4. [新しいポリシーの追加 (Add a Policy)]ダイアログボックスで、ポリシーの一意の名前を入力します。
5. [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[ポリシー形式 (Policy Type)]ドロップダウンリストから[DataStore ポリシー (DataStore Policy)]を選択します。
6. [ポリシーストレージ (Policy Storage)]ドロップダウンリストで、ストレージのディスクベースのストレージユニットを選択します。

7 スケジュール形式を選択するには、[スケジュール (Schedules)]タブで[OK]をクリックして、[アプリケーションバックアップ (Application Backup)]スケジュール形式を選択します。

メモ: XBSA フレームワークは、[アプリケーションバックアップ (Application Backup)]スケジュール形式のみをサポートします。

---

8 [クライアント (Clients)]タブで[新規 (New)]をクリックして、NetBackup for SQLite Agent を持つ NetBackup クライアントを追加します。

9 [クライアントの追加 (Add Client)]画面で[新規 (New)]をクリックし、SQLite サーバーを持つクライアントの名前を入力します。

10 [NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)]の順にクリックして既存のポリシーリストのポリシーを表示します。

3

NetBackup for SQLite のバックアップおよびリストア

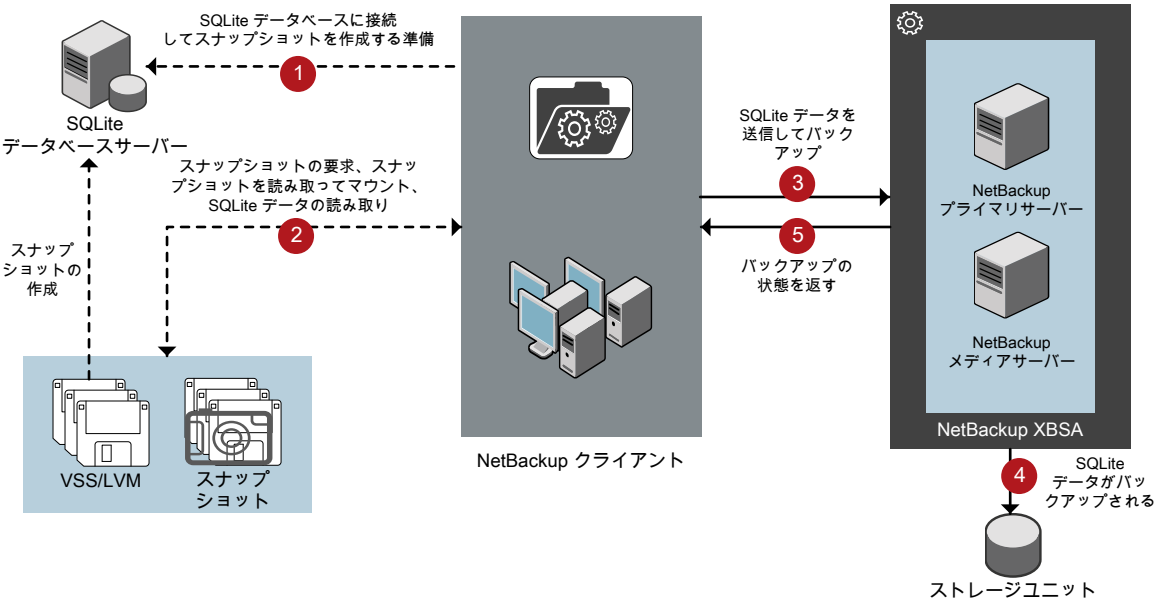
この章では以下の項目について説明しています。

- SQLite データベースのバックアップについて
- SQLite バックアップの実行
- バックアップ情報の検証
- バックアップの問い合わせ
- NetBackup カタログファイルからのバックアップ情報の削除
- SQLite バックアップのリストアについて
- SQLite バックアップのリストアの実行
- リダイレクトリストア
- ディザスタリカバリ

SQLite データベースのバックアップについて

`nbsqlite -o backup` コマンドは、`-S`、`-P`、`-d`、`-s` の必須パラメータを使用して、バックアップ操作を開始します。パラメータ `-z` は、Linux LVM を構成したシステムの必須パラメータです。

図 3-1 NetBackup for SQLite のバックアップのワークフロー



NetBackup for SQLite のバックアップのワークフロー

バックアップの開始時、NetBackup クライアント (`nbsqlite`) はスナップショットを作成し、スナップショットをマウントし、XBSA データオブジェクトにファイルをコピーします。その後エージェントは、NetBackup XBSA インターフェースにファイルを送信します。

NetBackup XBSA インターフェースは、NetBackup メディアサーバーが管理する、マウントされたメディアまたはディスクストレージにこのデータを書き込みます。

コマンドプロンプトには、バックアップの正常な完了状態が表示されます。アクティビティモニターには、バックアップジョブの状態も表示されます。

SQLite バックアップの実行

前提条件

バックアップを実行する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- ユーザーに管理者 (Windows) または root (Linux) のアクセス権があることを確認します。
- (Windows) ユーザー変数パスに `NetBackup¥bin` ディレクトリを設定します。
- UI から DataStore ポリシーを構成します。
- (LVM) ボリュームグループ内にスナップショット用の十分な空き領域があることを確認した上で、スナップショットのサイズをコマンドラインで設定します。

メモ: スナップショットのサイズが、バックアップするファイルのサイズの 110% であることを確認します。

バックアップを実行するには

1. `nbsqlite` コマンドラインでパラメータを構成します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o backup
-S primary_server_name
-P policy_name
-s schedule_name
(Linux) -z snapshot_size
-d sqlitedb_db_path
```

NetBackup からの SQLite バックアップのスケジュール設定

UI からの SQLite バックアップのスケジュール設定は、DataStore ポリシー形式を使用してバックアップスクリプトを呼び出すことで行えます。

詳しくは、https://support.cohesity.com/s/article/article-100041699 を参照してください。

バックアップ情報の検証

バックアップが成功した後、次のコマンドを使用して、バックアップを一覧表示してバックアップ情報を確認できます。

```
nbsqlite -o query
```

バックアップの問い合わせ

nbsqlite -o query コマンドは、指定したオプションに従ってバックアップファイルを一覧表示します。

パラメータ -S は必須パラメータです。代わりに、別のクライアントとポリシーを定義する -C および -P オプションを使用して、バックアップを問い合わせることもできます。

バックアップを問い合わせるには

1. nbsqlite コマンドラインでパラメータを構成します。
2. 次のコマンドを実行します。

   nbsqlite -o query -S *primary_server_name* [-C *ClientA*] [-P *policy_name*]

たとえば、クライアント ClientA からバックアップを問い合わせるには、次のコマンドを実行します。

nbsqlite -o query -S *primary_server_name* [-C *ClientA*]

たとえば、ポリシー名 policy_name を使用してバックアップをリストするには、次のコマンドを実行します。

nbsqlite -o query -S *primary_server_name* [-P *policy_name*]

たとえば、ポリシー名 policy_name を使用してクライアント ClientA からバックアップを問い合わせるには、次のコマンドを実行します。

nbsqlite -o query -S *primary_server_name* [-C *ClientA*] [-P *policy_name*]

NetBackup カタログファイルからのバックアップ情報の削除

削除用の nbsqlite コマンドは、カタログファイルからバックアップ情報を削除しますが、バックアップファイルは NetBackup メディアサーバーに保持します。パラメータ -S および -id は、必須パラメータです。

バックアップを削除するには

1. パラメータを構成するか、コマンドラインで指定します。
2. 次のコマンドを実行します。

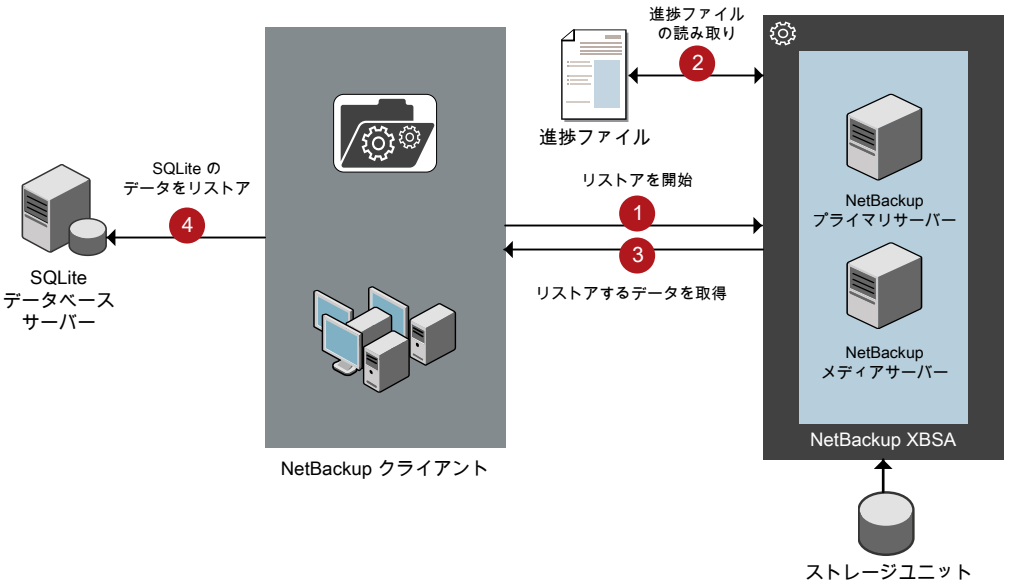
   nbsqlite -o delete -S *primary_server_name* -id *db_backup_image_name*

SQLite バックアップのリストアについて

リストア用の `nbsqlite -o restore` コマンドは、`-S` および `-t` の必須パラメータを使用してリストア操作を開始します。パラメータ `-id` および `-C` はオプションのパラメータです。

パラメータ `-id` は、指定したバックアップイメージ名を使用してバックアップをリストアします。パラメータ `-C` は、指定したクライアントにあるすべてのバックアップを一覧表示します。クライアントを指定しない場合は、デフォルトで NetBackup プライマリサーバーが指定されます。

図 3-2 NetBackup for SQLite のリストアのワークフロー



NetBackup for SQLite のリストアのワークフロー

リストアの開始時、エージェントはコマンドライン引数を読み取ります。

エージェントはその後、NetBackup XBSA インターフェースを介し、指定したパラメータに基づいてバックアップを取得します。

NetBackup XBSA インターフェースは進捗ファイルを読み取って SQLite バックアップファイルを受信し、それらをターゲットディレクトリにリストアします。

コマンドプロンプトには、リストアの正常な完了状態が示されます。アクティビティモニターにも、リストアジョブの状態が表示されます。

SQLite バックアップのリストアの実行

前提条件

リストアを実行する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- ユーザーに管理者 (Windows) または root (Linux) のアクセス権があることを確認します。
- (LVM ユーザー) データログとログディレクトリが、論理ボリューム上にあることを確認します。

バックアップをリストアするには

1. パラメータを構成するか、コマンドラインでパラメータを指定します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o restore -S primary_server_name -t target_directory
[-id db_backup_image_name][-C client_name]
```

リダイレクトリストア

リダイレクトリストアでは、最初のバックアップを実行したクライアントとは別のクライアントに、バックアップファイルをリストアできます。新しい場所には別のホストや別のファイルパスを指定できるほか、別のリダイレクトリストア名を使用することもできます。別のホストにリストアをリダイレクトするには、`install_path¥NetBackup¥db¥altnames` ディレクトリにターゲットクライアント名を含めます。

リダイレクトリストアの実行

代替ホストへリストアをリダイレクトする方法

1. ホストとして NetBackup クライアント名を指定し、リストアをリダイレクトするディレクトリとして SQLite ターゲットディレクトリを指定します。
2. NetBackup プライマリサーバーで、リダイレクトリストアの実行権限を付与するホストに対して `altnames` ディレクトリを作成します。たとえば、別のホストからのリストアを行う権限を Host B に付与するには、次のファイルを作成します。
   - (Windows) `install_path¥NetBackup¥db¥altnames¥HostB`
   - (Linux RHEL および SLES) `/usr/openv/netbackup/db/altnames/HostB`

3 altnames ディレクトリに、要求元クライアントがリストアを要求するファイルが存在するクライアントの名前を追加します。たとえば、Host A からリストアをリダイレクトする権限を Host B に付与するには、Host B のファイルに Host A を追加します。

メモ: (Linux のみ) NetBackup サービスユーザーアカウントには、altnames ディレクトリとホストファイルの所有権が必要です。

4 次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o restore -S primary_server_name -t target_directory
-id db_backup_image_name] [-C client_name]
```

メモ: リダイレクトリストアの場合は、ソースクライアント名 (バックアップ元のクライアント) を -C オプションに指定します。

5 リダイレクトリストアが正常に実行されたら、プライマリサーバーとクライアントで行った変更を元に戻します。

ディザスタリカバリ

ディザスタリカバリは、災害時のデータ損失に備えてデータの回復を計画することです。エージェントは、ディザスタリカバリ戦略としてリダイレクトリストアをサポートします。

詳しくは、p.16 の「リダイレクトリストア」を参照してください。

4

NetBackup for SQLite のトラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup for SQLite Agent 使用時のエラーのトラブルシューティング

NetBackup for SQLite Agent 使用時のエラーのトラブルシューティング

問題を解決するための一般的なガイドライン

表 4-1 に、エージェントの使用中に発生する可能性がある問題を解決するのに役立つ、一般的な手順を示します。

表 4-1　エラーを解決するための一般的な手順

手順	操作	操作
手順 1	エラーメッセージの確認.	通常、エラーメッセージは、適切に行われなかった処理を示しています。コマンドラインにエラーメッセージが表示されなくても、問題が発生している疑いがある場合、ログやレポートを確認します。これらに、問題を直接示すエラーメッセージが含まれている場合があります。ログとレポートは、トラブルシューティングに不可欠な手段です。

手順	操作	操作
手順 2	問題発生時に実行していた操作の確認.	次について質問します。 ■ 試行された操作。 ■ 使用した方法。 ■ 使用していたサーバープラットフォームおよびオペレーティングシステムの種類。 ■ サイトでプライマリサーバーとメディアサーバーの両方を使用している場合、プライマリサーバーとメディアサーバーのどちらであるか。 ■ クライアントの種類 (クライアントが関連する場合)。 ■ 過去にその操作が正常に実行されたことがあるかどうか。正常に実行されたことがある場合、現在との相違点。 ■ Service Pack のバージョン。 ■ 最新の、特に NetBackup を使用する際に必要な修正が行われたオペレーティングシステムソフトウェアを使用しているかどうか。 ■ デバイスのファームウェアのバージョン。公式のデバイス互換性リストに示されているバージョン以上かどうか。
手順 3	すべての情報の記録.	重要になる可能性がある情報を入手します。 ■ NetBackup のログ。 ■ NetBackup for SQLite ログに固有のログ。 ■ NetBackup XBSA に固有のログ。
手順 4	問題の修正.	問題を特定した後、情報を使用して問題を修正します。
手順 5	ベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。	エラーを解決できない場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。

ログを使用したエラーのトラブルシューティング

エラーのトラブルシューティングを行うには、NetBackup のログを参照してください。これらのログは次の場所にあります。

NetBackup プライマリサーバーのログは次の場所にあります。

- `install_path¥NetBackup¥logs¥bprd`
- `install_path¥NetBackup¥logs¥bpcd`
- `install_path¥NetBackup¥logs¥user_ops¥dbext¥logs`

`bprd` と `bpcd` のログファイルを有効にする必要があります。詳しくは『NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください。

NetBackup クライアントに固有のログは次の場所にあります。

- install_path¥netbackup¥logs¥nbsqlite

NetBackup XBSA に固有のログは次の場所にあります。

- <NetBackup_install_path>/netbackup/logs/exten_client

NetBackup のエラーのトラブルシューティングについて詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』および『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

NetBackup for SQlite のエラーのトラブルシューティング

表 4-2 では、操作の実行中に発生するエラーと、問題のトラブルシューティング方法の一覧を示します。

表 4-2 NetBackup for SQLite のエラーのトラブルシューティング

エラー	説明	解決方法
nbsqlite のバックアップが次のエラーで失敗します。 *xbsa.dll をロードできません (Unable to load xbsa.dll)*	ユーザー環境変数パスが NetBackup の bin ディレクトリに更新されていない場合、nbsqlite のバックアップが失敗します。	nbsqlite のバックアップを正常に実行するには ■ ユーザー環境変数パスを NetBackup_install_path/bin に更新します。
nbsqlite のバックアップが状態コード 7648 で失敗します。	安全な接続のためのホスト検証が失敗すると、バックアップが失敗する場合があります。 しばらくしてからバックアップ操作が終了し、ジョブの状態が nbsqlite コマンドプロンプトに表示されます。	有効なプライマリサーバー名とホスト名を構成していることを確認してください。
nbsqlite のバックアップが次のエラーで失敗します。 *XBSA を開始できませんでした (XBSA initiation failed)* または *XBSA オブジェクトの作成に失敗しました (Failed to create XBSA object)*	コマンドラインに必須パラメータが指定されていない場合、nbsqlite バックアップが失敗します。	バックアップを正常に実行するには: ■ 有効なプライマリサーバー名、ポリシー名、スケジュール形式をコマンドラインから構成します。 ■ nbsqlite エージェントと NetBackup プライマリサーバーとの間で通信エラーがないかどうかを確認します。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
(Windows) *VSS スナップショットの作成に失敗しました (VSS snapshot creation failed)*	nbsqlite 操作を実行する権限をユーザーが持っていない場合、nbsqlite のバックアップが失敗することがあります。	管理者モードで cmd.exe を実行します。

エラー	説明	解決方法
nbsqlite のリストア操作を実行しても、ターゲットの NetBackup クライアントからデータをリストアできません。	NetBackup のクライアント名とターゲットディレクトリが更新されていない場合、nbsqlite のリストアが失敗します。	リストアが成功した場合: ■ リストアを NetBackup ソースクライアントから開始します。 ■ NetBackup のクライアント名とターゲットディレクトリのパラメータを設定します。
nbsqlite のバックアップが次のエラーで失敗します。 (Linux) *LVM のスナップショット作成中にエラーが発生しました (Error creating LVM snapshot)*	ボリュームグループにスナップショット用の十分な容量がない場合、nbsqlite のバックアップが失敗することがあります。	**ボリュームグループの容量を確認するには、次のコマンドを使用します。** **1** $vgs コマンドによりボリュームグループの詳細が表示されます。 **2** 適切なスナップショットサイズを指定します。スナップショットは、バックアップファイルのサイズと同等以上のサイズでなければなりません。
正常なバックアップ後のエラーメッセージ: <volume_group>/<snapshot_name> 0 / 4096 (29393616896) 後の読み取りエラー: 入力エラーまたは出力エラー。 (<volume_group>/<snapshot_name> Read failure after 0 of 4096 at 29393616896: input or output error.) または <volume_group>/<snapshot_name> 0 / 4096 (4096) 後の読み取りエラー: 入力エラーまたは出力エラー。	(<volume_group>/<snapshot_name>: read failure after 0 of 4096 at 4096: input or output error.) ボリュームグループにスナップショットが含まれる場合に、nbsqlite のバックアップからこれらのエラーが返されます。バックアップを再度実行する前に、スナップショットを一覧表示してから削除できます。	**スナップショットを削除するには:** **1** 既存のスナップショットを一覧表示するには、次のコマンドを実行します。 $lvs コマンドによりスナップショットの詳細が表示されます。 **2** スナップショットを削除するには、次のコマンドを実行します。 $ lvremove -f <volume_group>/<snapshot_name>

エラー	説明	解決方法

Linux (LVM) の `nbsqlite` バックアップが次のエラーで失敗します。
スナップショットのマウント解除中にエラーが発生しました - デバイスまたはリソースがビジー状態です (Error unmounting the snapshot-Device or resource busy)
または
snapshot-sqlitesnap_<timestamp> の削除中にエラーが発生しました (Error removing the snapshot-sqlitesnap_<timestamp>)
	スナップショットやデバイスをマウント解除しようとしたとき、または既存のスナップショットを削除するときに、`nbsqlite` のバックアップが失敗します。	スナップショットをマウント解除するには
		1 次のコマンドを使用して、マウントされているすべてのファイルシステムをリストします。
		`$ mount-l`
		2 スナップショットがまだある場合は、次のコマンドを実行します。
		`$unmount<mount_directory>`
		メモ: このディレクトリは `/mnt/<snapshot_name>` に作成されます。スナップショットの接頭辞名は `sqlitesnap` です。
		3 スナップショットを手動で削除するには、次のコマンドを実行します。
		`lvremove -f <volume_group>/<snapshot_name>`

A

NetBackup for SQLite のコマンドおよび規則

この付録では以下の項目について説明しています。

- NetBackup for SQLite Agent コマンドについて
- NetBackup for SQLite Agent コマンドの表記規則について

NetBackup for SQLite Agent コマンドについて

このセクションでは、nbsqlite 操作の実行に利用可能なコマンド、オプション、パラメータについて説明します。コマンドそれぞれの操作の簡単な説明、必須パラメータ、オプションパラメータが含まれています。エージェントは、このドキュメントで説明するコマンド、オプション、およびパラメータのみをサポートしています。

以下を確認します。

- nbsqlite コマンドラインでパラメータを設定します。
- 操作形式 (-o) は、nbsqlite コマンドラインに設定します。
- その他のパラメータや、それぞれの操作に対応するオプションは、nbsqlite コマンドラインで設定します。

NetBackup for SQLite Agent コマンドの表記規則について

このドキュメントのエージェント固有のコマンドの説明では、次の表記規則が適用されます。

次のコマンドをコマンドラインインターフェースで実行して、結果を確認してください。

- コマンドラインに -help コマンド (-h) オプションだけを指定すると、コマンドラインの使用方法が出力されます。次に例を示します。

  ```
  nbsqlite -h
  ```

- 角カッコ [ ] の中のコマンドラインの要素は、必要に応じて指定します。それ以外のパラメータは必須です。
- 斜体は、ユーザー指定による変数を示します。たとえば、ポリシー名とスケジュール名をバックアップ操作に指定します。

  ```
  nbsqlite -o backup -S primary_server_name -P policy_name -s
  schedule_name
  ```

NetBackup for SQLite のコマンドのオプション

表 A-1に、nbsqlite 操作のオプションを示します。

表 A-1 nbsqlite コマンドのオプション

オプション	説明
-C	リダイレクトリストア用の NetBackup クライアントの名前を構成します。
-d	SQLite データベースパスを構成します。
-h	これが nbsqlite コマンドラインに指定された唯一のオプションの場合は、ヘルプの使用方法を表示します。
-id	バックアップイメージ名を使用して、指定したバックアップを構成します。
-o	操作形式 (バックアップ、リストア、問い合わせ、削除) を構成します。
-P	DataStore ポリシーを構成します。
-s	NetBackup のスケジュールを構成します。
-S	NetBackup プライマリサーバーを構成します。
-t	データをリストアするターゲットディレクトリを構成します。
-z	LVM のスナップショットサイズを構成します。

B

NetBackup for SQLite のコマンド

この付録では以下の項目について説明しています。

- nbsqlite -o backup
- nbsqlite -o restore
- nbsqlite -o query
- nbsqlite -o delete

nbsqlite -o backup

nbsqlite -o backup – NetBackup クライアントからバックアップ操作を実行します。

概要

```
nbsqlite -o backup
-S primary_server_name
-P policy_name
-s schedule_name
(LVM) -z snapshot_size
[-d sqlite_db_path]
```

説明

このコマンドは、NetBackup DataStore のポリシー名とスケジュール形式を使用して、NetBackup クライアントからバックアップ操作を起動します。パラメータ -S、-d、-P は、Windows では必須パラメータです。パラメータ -z は、LVM ユーザーの必須パラメータです。

Windows では、ディレクトリパスは /usr/openv/netbackup/bin です

Linux システムでは、ディレクトリパスは install_path¥NetBackup¥bin です

オプション

-d SQLite データベースに接続するためのパスを構成します。

-P NetBackup DataStore ポリシーの名前を構成します。

-S NetBackup サーバー名を構成します。

-s DataStore ポリシー用に構成したスケジュール名を指定します。

-z (LVM バックアップ) LVM のスナップショットのサイズを指定します。

nbsqlite -o restore

nbsqlite -o restore – NetBackup サーバーからバックアップファイルをリストアします。

概要

nbsqlite -o restore

-S *primary_server_name*

-t *target_directory*

[-id *db_backup_id*]

[-C *NetBackup_client_name*]

説明

nbsqlite コマンドは、-t および -S の必須パラメータを使用して、バックアップファイルをリストアします。-id と -C はオプションのパラメータです。

Windows システムでは、このコマンドへのディレクトリパスは install_path¥NetBackup¥bin です。

Linux システムでは、このコマンドへのディレクトリパスは /usr/openv/netbackup/bin です

オプション

-C クライアント名を指定します。

-id

Specifies the backup image name.

-S NetBackup サーバー名を構成します。

-t ターゲットディレクトリを指定します。

nbsqlite -o query

nbsqlite -o query – SQLite データベースに対して実行されるバックアップを問い合わせます。

概要

nbsqlite - o query

-S *primary_server_name*

[-P *policy_name*]

[-C *client_name*]

説明

nbsqlite -o query コマンドは、-S の必須パラメータと、-C および -P のオプションパラメータを使用してバックアップを取得します。

Windows システムでは、このコマンドへのディレクトリパスは install_path¥NetBackup¥bin¥ です。

Linux システムでは、このコマンドへのディレクトリパスは /usr/openv/netbackup/bin/ です

オプション

-C　指定したクライアントのすべてのバックアップを取得して一覧表示します。

-P　指定したポリシー名のすべてのバックアップを取得して一覧表示します。

-S　NetBackup プライマリサーバーを構成します。

nbsqlite -o delete

nbsqlite -o delete – NetBackup カタログファイルからバックアップ情報を削除します。

概要

nbsqlite - o delete

-S *primary_server_name*

-id *db_backup-id*

説明

nbsqlite -o delete コマンドは、NetBackup カタログファイルからバックアップ情報を削除しますが、バックアップはストレージメディアに保持します。

パラメータ -S と -id は、必須パラメータです。

オプション

-id
バックアップイメージ名を使用して、バックアップを指定します。

-S NetBackup プライマリサーバーを構成します。

索引

記号

スナップショット 7
デフォルトのアプリケーションバックアップ 9
バックアップ
    LVM が構成されたシステム 12
    バックアップイメージ 12
    バックアップ情報 12
    パラメータ 12
    削除 12
    検証 12
前提条件 7
単一ファイル 7

D

DataStore ポリシー 9